

# 青年部情報

名寄市職労青年部

VOL. 13 2016年 3月28日

## 2016春闘交渉 青年部参加報告

当局から要求書（基本組織）の回答を3月4日に受け、3月15日（火）、副市長交渉が行われました。青年部としては交渉に4役+高橋、堂前両特別幹事で参加してきました。交渉の結果は妥結となり、基本組織からも内容説明が行われているところですが、今回、青年部として、アンケートを基に3つの方針を立てて交渉に臨みましたので、青年部としての視点から、改めて各項目別に報告させて頂きます。

### 青年部 春闘期交渉方針と結果 ※太字が方針、細字が結果です

#### ○賃金について

- ・青年層の若い世代で特に賃金が足りていない実態があり、20代後半からの世代でも将来の不安を感じており、一人一人が充分に自立して暮らしていくれる賃金実態とはなっていない。

→基本組織により、賃金水準は労使協議の上で決定していくとの確認をとることが出来ています。

前回の「給与制度の総合的見直し」交渉において口頭や持参したステッカーにおいて厳しい実態を伝えていますが、今回は看護師等医療職においても賃金水準改善の訴えがアンケートで示されていたことを伝え、人員確保・離職防止に繋げるためにも重要であるというところに繋げています。



#### ○不払い超勤実態の改善について

- ・実態を訴え、状況改善をめざす。

→青年から出された厳しい実態、特に、年齢構成が若くなっている職場が多く、人事異動で無理がかかっていること、必要な時間外手当についてはしっかり支給できるよう管理職のマネジメントを徹底し、4月の人事異動にともない、不慣れな職場だからということで不払い残業につながる懸念があることを話し、当局からは、適切に進めていくよう管理職会議等の機会で話していくとの回答を得ています。

病院については経営状況という視点で不払い超勤を行うことは話としてはおかしいため、そこは当然切り離して考えていくべきもの、という発言が副市長からなされ、チーム会議が不払いとなっている実態については、病院当局に確認し、実態把握に努めたいとの回答を得ています。

#### ○職場の人員確保・配置について

- ・業務量が多い、人員が足りない、という部署が多い。全体として伝えていくが、特に、アンケート、分散会結果等で他の職場からも声があった「病院」「保育所」「大学」「企画課」「農務課」を重点として伝える。
- ・専門職配置の必要性「医事課」「博物館（学芸員）」「保育士」

→組織機構について往復運動が確保されず議論も不十分であること、トップダウンで決定事項が下りてくるだけになっている職場の声があることを伝えています。また、専門職の必要性についても訴えてきています。今回は特に保育職場の厳しい実態を出来る限り説明し、子どもの命を守るという課題がある中で人員確保がなされず不安があること、正職員・臨時職員の業務内容に差がなくなってきた中で、待遇改善や正職員増員を検討するよう伝えています。

★はじめに当局から具体的な職場名を上げることは避けるよう話され、職場ごとに状況を伝えるという点が不十分な結果となりましたが、その中で具体的な実態を伝え、前進回答をめざしてきました。今回の交渉では、要求を継続してきた臨時職員の子の看護休暇については制度導入が決まる等、一定の前進が確認できたところです。アンケートや討論により出された声については今後の取り組みにより補強していく、更なる職場環境、生活状況の前進に繋げていきましょう。